日本病理学会中国四国支部会員　各位

　常日頃より支部活動にご協力いただき有難うございます。

　さて、新型コロナウィルス感染拡大のなか、第132回日本病理学会中国四国支部学術集会（スライドカンファレンス）開催の可否について、世話人（鳥取大学 梅北教授）と支部幹事・監事がWeb会議を開き意見交換を行いました。その結果、下記の方針が決まりましたので、ご連絡申し上げます。

〔第132回日本病理学会中国四国支部学術集会（スライドカンファレンス）〕

　１）通常の形式での開催は行わない。

　２）Web形式〔Webex Meetingsアプリを採用〕での開催を目指すため、開催の可否について、増本学術委員長、梅北先生、支部長を中心に検討を行う。Web形式での開催がシステム上は可能と判断された際には、特別講演の講師の方にもWeb形式での講演発信の可否について打診する。Web形式での特別講演となった際には、支部会員のみが受講可能（他領域の方が受講不可能）となるため共通講習としての単位は認められないので、病理領域別講習の単位として認定する。Web形式の開催となれば、初回となるので、演題数を絞った開催となる可能性がある。

　３）現在行われている演題募集（～5月8日）は、そのままとする。

　４）上記１）２）３）について、メールにて支部会員に周知する。

〔中国四国支部総会（毎年6月の学術集会に際して開催）〕

　　支部総会の開催は行うが、上記１．２）の進捗状況をみて開催方法を決定するが、Web形式が不可能な場合は、メール審議形式とする。

　第132回日本病理学会中国四国支部学術集会（スライドカンファレンス）のWeb形式ので開催の最終的な可否判断については、決定次第、通知するように致します。Webex Meetingsアプリとの正式契約にかかる時間にもよりますが、開催の可否について5月中にはお知らせする方針でおります。ちなみに、Web形式の開催となった際、Webex Meetingsアプリを用いますが、支部会員の皆様のPCには開催に際し自動的にダウンロードされますので、会員の皆様は個々に用意する必要はございません。

　ご迷惑をおかけいたしますが、新型コロナウィルス感染拡大の終息時期がみえない現状では、何らかの代替形式での学術集会開催を模索する必要があることをご理解いただければ有難く存じます。

　今後とも宜しくお願い申し上げます。

池田栄二（支部長）

梅北善久（第132回日本病理学会中国四国支部学術集会世話人）